日本建設機械化協会
J.C.M.A.

No. 130　　1960年12月号

目　次

今後のポンプ浚渫船 ……高木博二… 1
技術士法の問題点 ……平山復二郎… 2
最近の建設事業と建設業 ……小西是夫… 5
新治水 10 カ年計画について ……西川喬… 9
京葉臨海工業地帯の建設および計画の概要 ……赤木正典…13
最近の港湾工事の概要 ……大野正夫…17
最近の作業船建造に表われた技術的進歩 ……三宅淳達…24
運輸省ドラグサクション浚渫船について ……両角常美…28
硬土盤浚渫船について ……芳野重正…32
道路工事にモータスクレーパを用いて ……山本元…37
西独におけるグースアスファルト工法 ……亀卦川振興…40
タイヤローラおよびバイブロコンパクタの現場締固め試験について ……増岡康治 角島克弥…44
エアクリーナの試験 ……牧田新也 小池正人 清水富士雄…50
「支部便り」
東北支部第5回建設機械展示会 ……東北支部…53
昭和 35 年度中部支部建設機械展示会 ……中部支部…54
ニューズ ……(編集部)…55
行事一覧・編集後記 ……(上東・両角)…56
「建設の機械化」誌 既刊目次一覧表

◇表紙写真説明◇

ダイハツ工業株式会社製
VRM タンデム形バイブレーションローラ

ダイハツVRM形バイブレーションローラは，国産振動ローラを最初に完成した当社が，多年の研究と経験により，転圧性能ならびに操縦性と，さらに居住性の向上をはかって設計製作したもので，原動機は高性能なダイハツ2PK-7.5形ディーゼル機関を搭載し，運転に関する各操作部にはすべて遠隔操作機構を採用し，また完全な防振座席による快的な乗心地等デラックスな振動ローラである。本機は特殊作業用軽自動車として登録できるため，軽免許で道路運行が可能である。

主　要　諸　元

形式名称	VRM 形ディーゼル機関駆動タンデム形自走式バイブレーションローラ					
全装備重量	3,000 kg	ローラ振動数	3,000 cpm, 2,300 cpm	原動機	定格出力	10 PS/2,000 rpm
車体寸法 全長	3,000 mm	転圧能力	6~16 t ロードローラ相当		実用最大出力	12 PS/2,400 rpm
車体寸法 全幅	1,290 mm	操作方式（走行起振）	遠隔操作		総排気量	0.742 l
車体寸法 全高	1,835 mm	変速機 様式（走行起振）	常時かみあい歯車式		始動方式	電気始動
ローラ寸法 前輪（かじ取）	700 φ mm×750 mm	変速機 クラッチ（走行起振）	複式多板摩擦形		冷却方式	水冷，ラジエータ，ファン
ローラ寸法 後輪（振動）	850 φ mm×900 mm	起振機様式	Vロベルト駆動一軸偏心式		燃料消費率	240 g/ps.h
自走速度（前後進共）	20–40 m/min	形式名称	ダイハツ 2 pk–7.5 立形4サイクル2気筒渦流室式ディーゼル機関		総重量	約 130 kg
最小回転半径	3.2 m					